	もくじ	今回 (#10) の内容:シラバスでの該当部分
#10 構造体 2022年度 / ブログラミング及び実習 III 角川裕次 ^{服谷大学 先端理工学部}	1 第 12-1 節 構造体 2 第 12-2 節 メンバとしての構造体	小テーマ: 構造体 第 16 回:構造体 第 17 回:構造体へのポインタ型
1/36	2/36	3/36
重要概念リスト	今回の実習・課題 (manaba へ提出)	
 構造体:関連情報をひとまとめにする新たな型 派生型 配列型 Type a[n]; 構造体型 struct { Type1 m1; Type2 m2; } a; 共用体型 union { Type1 m1; Type2 m2; } a; 関数型 Type a (Type1 m1, Type2 m2;) { } ボインタ型 Type *a; 演算子により構造体のメンパをアクセス 例: point.x 演算子によりポインタで指される構造体へのメンバをアクセス 例: p->x 構造体は代入が可能 配列は代入が不可能 	実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出)	第 12-1 節 構造体
4/36	5/36	6/36

重要 重要 データの関連性 p.330 構造体の変数宣言 構造体 p.332 List 12-1 は学生情報 (名前と身長) を身長に関して昇順にソート 例: 学生を表す情報の項目 変数 sanaka を宣言 学生情報 (名前と身長) は以下の形で記述 (プログラムコード詳細は省略) 名前, 身長, 体重 struct student sanaka; int height[] = {178, 175, 173, ■ 構造体 struct student は定義済みであること 165. 179ì: 構造体によるデータ型の定義 char name[][NAME_LEN] = {"Sato", "Sanaka", "Takao", "Mike", "Masaki"}; 複数の変数の宣言 struct student { char name[64]; /*名前*/ struct student s1, s2, s3, s4; int height; /*身長*/ struct student s5. s6: float weight; /*体重*/ 問題点: 学生に関する情報 (名前と身長) の記述が分離してわかりにくい ■ 変数を6つ宣言 ■ 関連情報が別々に記述されているので修正・改造が困難 (保守性低) (新たなデータ型 struct student を定義するだけ: 変数宣言はまだ) ■ ソースコード上から関連性を読み取るのが困難(可読性低) 構造体のタグ名の定義をしない変数宣言も可能 用語 struct { 解決法: 構造体 (structure) の導入: int ■ student : 構造体タグ (構造体のおなまえ) ソースコード上でひとまとめにする記述をして保守性・可読性が向上 long у; ■ name, etc. : メンバ (構造体中の要素) double z; ■ 保守性向上: 関連する情報をひとまとめに記述 } a. b: ■ 可読性向上: ソースコード上から関連性を容易に読み取れる ■ 不便: タグ名が定義されないので他の場所では使えない 7/36 8/36 重要 構造体のメンバと , 演算子 p.334 メンバの初期化 p.335 構造体のメンバと -> 演算子 p.336 **構造体のメンバへのアクセス: ドット演算子 . を使用** 宣言時に初期値を指定することで構造体変数の初期化が可能 間接演算子とドット演算子を使用した例 例: sanaka.height = 175; List 12-3 (部分): 学生情報を表す構造体の使用例 List 12-4 (部分): 構造体へのポインタとメンバへのアクセス /* sが指す学生の体重が 0以下であれば標準体重を代入 */ List 12-2 (部分): 学生情報を表す構造体の使用例 int main(void) void set_stdweight(struct student *s) int main(void) struct student takao = {"Takao", 173}; printf("氏名 = %s\n", takao.name); if ((*s).weight <= 0) struct student sanaka; (*s).weight = ((*s).height - 100) * 0.9;printf("身長 = %d\n", takao.height); printf("体重 = %.1f\n", takao.weight); strcpy(sanaka.name, "Sanaka"); /* 名前 */ /* 身長 */ sanaka.height = 175; return 0: int main(void) sanaka.weight = 62.5; /* 体重 */ printf("氏名 = %s\n", sanaka.name); struct student takao = {"Takao", 173}; printf("身 長 = %d\n", sanaka.height); printf("体 重 = %.lf\n", sanaka.weight); 初期値はメンバの順に書き連ねて {と}で囲む set_stdweight(&takao); printf("氏名 = %s\n", takao.name); printf("身長 = %d\n", takao.height); return 0; {"Takao", 173} printf("体重 = %.1f\n", takao.weight); return 0; 初期化子の記述がなければ 0 に初期化される ■ takao.weight の値は 0 に初期化

11/36

10/36

重要

9/36

12/36

重要 メンバへのアクセス:間接演算子とドット演算子 メンバへのアクセス: -> 演算子 構造体と typedef p.338 メンバアクセス演算子 ->で構造体のメンバを表す アドレス演算子 & の使用例: 構造体変数 takao へのポインタを得る 構造体の型名を typedef により別名を付けることができる &takao 例:ポインタ変数 std が指す構造体のメンバ height List 12-5 (部分) s->height typedef struct student { 関数呼び出し例:ポインタを引数にして呼び出す . char name[NAME_LEN]; /* 名前 */ ■ (*s).height と同等 /* 身長 */ int height; set_stdweight(&takao); float weight; /* 体重 */ } Student; List 12-4 の書き換え例 (部分) 間接演算子とドット演算子の使用例 型 Student: 構造体 struct student 型の別名として定義 /* sが指す学生の体重が 0以下であれば標準体重を代入 */ ポインタ変数 s が指す構造体のメンバ height void set_stdweight(struct student *s) typedef struct student { (*s).height if (s->weight <= 0)} Student: s->weight = (s->height - 100) * 0.9;■ 間接演算子 * でポインタから構造体を得る ■ ドット演算子 . で構造体のメンバの値を参照 13 / 36 14/36 15 / 36 構造体とプログラム p.339 集成体型 (aggregate type) p.340 構造体への typedef の例 List 12-5 (部分) 対象の属性をひとまとめ:関連性がひと目で分かる いくつかのデータ型をひとまとめにしたデータ型 ■ ソースコードの可読性・保守性を向上できる ■ 構造体 と 配列 はともに集成体型 typedef struct student { ■ ソースコードを書く時・読む時わかりやすく間違いしにくい int height; /* 身長 */ 配列と構造体の違い1:要素型 ■ あとから属性を追加するときわかりやすい /* 体重 */ float weight; } Student: ■配列 :同じ型のデータ型の集成 struct student { char name[NAMELEN]; ■ 構造体:同じ型とは限らないデータ型の集成 void set_stdweight(Student *s) double height; double weight; if (s->weight <= 0)配列と構造体の違い2:代入 } student[N]; $s \rightarrow weight = (s \rightarrow height - 100) * 0.9;$ ■配列 : 不可能 ■ 構造体: 全メンバを一度に代入が可能 対象の属性がばらばらに記述されると関連性が分からない ■ ソースコードの可読性・保守性が悪い char name[N][NAMELEN]; double height[N]; double weight[N]; 16/36 17 / 36 18 / 36

構造体の値を返却する関数 p.340 構造体の値を返却する関数の呼び出し例 名前空間 p.341 関数の返却値型として構造体を指定可能 List 12-6 (部分) 名前空間の分類 (4 種類) ■ 構造体は代入が可能なので ■ ラベル名 (goto 文でのジャンプ先) int main(void) ■ (配列はだめ: 代入が不可能なので) 2 タグ名 (構造体の名前) struct xyz s; List 12-6 (部分): 構造体を返す関数の例 3 メンバ名 (構造体の構成要素) $s = xyz_of(12, 7654321, 35.689);$ struct xyz { printf("xyz.x = %d\n", s.x); 4 一般的な識別子 (変数名/型名) int x; long y; printf("xyz.y = %ld\n", s.y); $printf("xyz.z = %f\n", s.z);$ double z; 名前空間が異なれば同じ名前を使って良い(混乱しない) return 0; int main(void) { struct xyz xyz_of(int x, long y, double z) struct x { /*タグ名*/ 実行結果 int x; /*メンバ名*/ struct xyz temp; int y; /*メンバ名*/ temp.x = x;xyz.x = 12} x; /*識別子*/ temp.y = y; temp.z = z; xyz.y = 7654321/*ラベル名*/ xyz.z = 35.689000/*変数名.メンバ名*/ x.x = 1;return temp; x.v = 5: /*変数名. メンバ名*/ return 0; ■ 局所変数 temp に値を代入 ■ その構造体を値として関数値として返す 19/36 20 / 36 21 / 36 構造体の配列 p.342 構造体の配列の宣言の例 構造体の値の交換 構造体の配列を宣言できる 初期化子を伴う宣言 (要素数は初期化子より自動決定) List 12-7 (部分): 2 つ構造体の値を交換 ■ 他の型の配列と同様 Student std[] = { // 構造体の配列 void swap_Student(Student *x, Student *y) List 12-7 (部分): 構造体の定義と配列の宣言 { "Sato", 178, 61.2}, /* 佐藤君 */ { "Sanaka", 175, 62.5}, /* 佐中君 */ Student temp = *x; typedef struct { "Takao", 173, 86.2}, /* 高尾君 */ *x = *y; . char name[NAME_LEN]; /* 名前 */ { "Mike", 165, 72.3}, /* Mike君 */ { "Masaki", 179, 77.5}, /* 真崎君 */ *y = temp;/* 身長 */ int height; float weight; /* 体重 */ }; } Student; int main(void) 要素数を指定した宣言(初期値は不指定) 構造体から構造体への代入ができる Student std[] = { // 構造体の配列 Student std[10]; (注意: 配列から配列への代入はできないのでしたよね...) { "Sato", 178, 61.2}, /* 佐藤君 */ { "Sanaka", 175, 62.5}, /* 佐中君 */ { "Takao", 173, 86.2}, /* 高尾君 */ { "Mike", 165, 72.3}, /* Mike君 */ { "Masaki", 179, 77.5}, /* 真崎君 */ }; 略 22 / 36 23 / 36 24 / 36

重要 構造体の配列のソート 派生型 p.342 List 12-7 (部分): 5人のデータを身長でソート 派生型 (derived type) void sort_by_height(Student a[], int n) 既存のデータ型から作り出された新たなデータ型 for (int i = 0; i < n - 1; i++) { ■ 無数に新たな定義が可能 for (int j = n - 1; j > i; j--) if (a[j - 1].height > a[j].height) swap_Student(&a[j - 1], &a[j]); 派生により作られる型 第 12-2 節 メンバとしての構造体 ■ 配列型:要素の型と要素の数から決まる ■ 構造体型:列挙されたメンバのリストから決まる バブルソート ■ 共用体型: 重なり合うメンバのリストから決まる ■ 身長の大小を比較 ■ 関数型:返却値型と仮引数の型のリストから決まる ■ 構造体の内容をまるごと交換 ■ ポインタ型: オブジェクトまたは関数の型から決まる 25 / 36 26 / 36 27 / 36 構造体のメンバを持つ構造体 p.345 座標を表す構造体 p.344 座標を表す構造体の利用例 List 12-8 (抜粋) より List 12-8 (抜粋) より: main 関数 Fig 12-13 メンバに構造体を持つ構造体 typedef struct { int main(void) x と y の 2 つの値で 2 次元空間の点を表す構造体 double x; /* X座標 */ Point crnt, dest; double y; /* Y座標 */ typedef struct { printf("現在地のX座標:"); scanf("%lf", &crnt.x); } Point; /* X座標 */ double x; printf("Y座標:"); scanf("%lf", &crnt.y); double y; /* Y座標 */ printf("目的値のX座標:"); scanf("%lf", &dest.x); printf("Y座標:"); scanf("%lf", &dest.y); typedef struct { } Point; Point pt; /*現在位置*/ printf("目的値までの距離は%.2fです。\n", double fuel; /*残り燃料*/ ■ タグ名は与えず typedef により別名の型を定義 distance_of(crnt, dest)); return 0; 変数宣言の例 (Car 構造体の中に Point 構造体が含まれている) 2点間の距離を求める関数 Car c: #define sqr(n) ((n) * (n)) /* 2 乗値を求める */double distance_of(Point p1, Point p2) メンバへのアクセス例 return sqrt(sqr(p1.x - p2.x) + sqr(p1.y - p2.y)); c.pt.x = 10.0; c.pt.v = 20.0;c.fuel = 100.0; 28 / 36 29 / 36 30 / 36

List 12-9 概説 (1)	List 12-9 概説 (2)	List 12-9 概説 (3)
やっていること:自動車の移動 ■目的地の X,Y 座標を入力 ■移動 (燃料が減る),現在位置を更新 ■以上を繰り返す 実行例 現在位置:(0.00,0.00) 残り燃料:90.00リットル 移動しますか【Yes1/No0】:1 目的値の X 座標:10 Y 座標:20 現在位置:(10.00,20.00) 残り燃料:67.64リットル 移動しますか【Yes1/No0】:1 目的値の X 座標:25 現在位置:(25.00,20.00) 残り燃料:52.64リットル 移動しますか【Yes1/No0】:0	構造体 2 つ /*=== 点 の 座標を表す構造体 ===*/ typedef struct { double x; /* X 座標 */ double y; /* Y 座標 */ } Point; /*=== 自動車を表す構造体 ===*/ typedef struct { Point pt; /* 現在位置 */ double fuel; /* 残り燃料 */ } Car;	main 関数 初期位置は原点(0,0), 燃料 90 で動作開始 int main(void) { Car mycar = {{0.0, 0.0}, 90.0}; /*初期の位置と燃料*/ while (1) { int select; Point dest; /* 目的地の座標 */ put_info(mycar); /* 現在位置と残り燃料を表示 */ printf("移動しますか【Yes1 / No0】: "); scanf("%4", &select); if (select != 1) break; printf("目的値のX座標!"); scanf("%1f", &dest.x); printf(" Yewer*!"); scanf("%1f", &dest.y); if (!move(&mycar, dest)) puts("\a 燃料不足で移動できません。"); } return 0; }
List 12-9 概説 (4)	. ,	番外編の課題 1
移動: move 関数 /* cの指す車を目的座標 destに移動*/ int move(Car *c, Point dest) { double d = distance_of(c->pt, dest); /* 移動距離 */ if (d > c->ftuel) /* 移動距離が燃料を超過 */ return 0; /* 移動不可 */ c->pt = dest; /* 現在位置を更新(destに移動)*/ c->fuel -= d; /* 燃料を更動 に離 dの分だけ減る) */ return 1; /* 移動成功 */ }	おわり	複数天体の運行シミュレーション ■ 天体は互いの重力で影響し合い移動 ■ 1 秒ごとの各天体の位置と速度を表示 ■ 質量、初期位置、初期速度、その他詳細は各自で適宜設定のこと #define HBNAME 64 struct hbody { char name[HBNAME]; /*天体名*/ double m; /*質量 [kg]*/ double x, y, z; /*位置 [m]*/ double vx, vy, vz; /*速度 [m/s]*/ }; #define NHB 3
リッター 1 メートルの燃費が悪い車です	35/36	struct hbody stars[NHB]; 構造体を使わないと変数宣言はこんなにもおぞましい(個人の主観) #define NHB 3 char *name[NHB]; double m[NHB], x[NHB], y[NHB], z[NHB], vx[NHB], vy[NHB], vz[NHB];